

腰椎後方侵入椎体間固定術 (TLIF) 時の腸骨採骨部への補填

腰椎後方侵入椎体間固定術 (TLIF) の移植骨として、右腸骨後方より自家骨を採取した。採骨より生じた欠損部にスーパーポアKB-4 (10×40×30mm) 1個をリウエルで加工し、補填した。



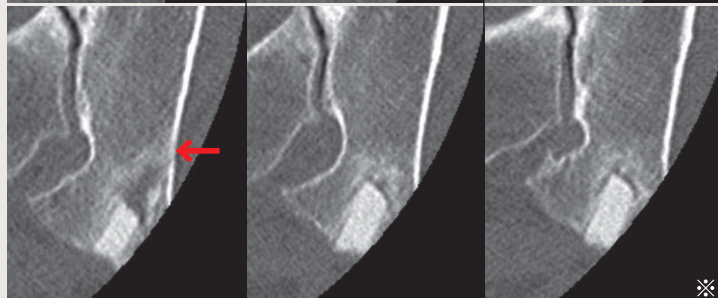
KB-4
10×40×30mm

術後1週



リウエルで加工した際に生じた顆粒を充填したブロックを補填した。

術後3ヶ月



顆粒状人工骨は吸収骨置換され(←)、ブロックと骨の境界部分は不明瞭になりつつある。

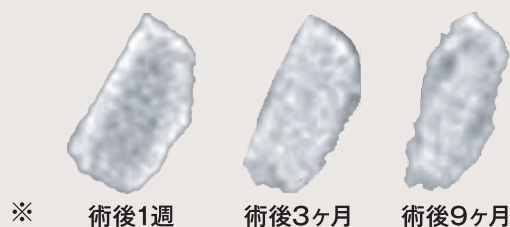
術後9ヶ月



海綿骨部分に充填した顆粒状人工骨は吸収され骨に置換されている。またブロックと骨の境界の吸収骨置換が進行するとともに皮質骨部分(↑)の再生も認められる。

採骨部

β-TCP面積率の変化



画像解析で、埋植ブロックを析出。
術後1週を基準に吸収率を割り出した。

